

短報

## 熊本市加勢川河原におけるセイタカナミキソウの発見

安田 晶子・前田 哲弥

\*1熊本県博物館ネットワークセンター

### A new record of *Scutellaria barbata* D.Don from riverside of the Kasegawa River.

Kumamoto Prefecture Museum Network Center

キーワード：セイタカナミキソウ, *Scutellaria barbata* D.Don, 熊本市, 加勢川, 新たな生息地

*Scutellaria barbata* D.Don has been found around Ezu-ko in Kumamoto city in 1993. We found a new habitat of this plant below Ezu-ko. The new habitat was about 7.8 km away from the edge of Ezu-ko in a straight line.

Key wards; *Scutellaria barbata* D.Don, Kumamoto City, the Kasegawa River, a new habitat,

日本においてセイタカナミキソウ *Scutellaria barbata* D.Donは1993年に熊本県江津湖ではじめて生育が確認された(佐藤ほか 2001a)。1993年に吉田喜久子と馬場美代子により採集された標本は、当熊本県博物館ネットワークセンター(1993年当時は熊本県立博物館(仮称)仮取蔵庫)に収蔵されている。これらの標本と本年採集した標本を比較した結果、2020年5月に熊本市南区加勢川河原で採集した標本が本種であると同定したので、ここに報告する。

村田(2005)は、「セイタカナミキソウは、ネパール、インド、中国および韓国に分布するシソ科タツナミソウ属の多年生草本で、インドやネパールでは、決して深山霊谷に生える植物ではなく、標高1000m以上の常緑樹林帯の下層の日当たりの良い道端の湿った草地に生え、カトマンズ郊外にも生育する。台湾で *S. ribularis* Wall.(1830)、朝鮮半島で *S. komarovi* Lev.et Vant.として記載されていた種は、いずれも本種のシノニムであった。」と紹介した。村田(2005)は、朝鮮半島において本種が絶滅した可能性を示唆したが、近年になって再発見された(Lee *et al.* 2018)。

セイタカナミキソウは、1993年に熊本市江津湖東岸(左岸)で採集された時点では種名が判明せず、村田源

により2001年に本種と同定された(佐藤ほか2001a)。

これが本種の日本における初記録となった。本種は、1993年から2001年までの間に、下江津湖艇庫から画図橋付近にかけての東岸を中心に、江津湖の上流域から下流域にかけて約2kmにわたる広範囲に生育を広げていた。

本種はレッドデータブックくまもと2019で要注意種AN(Attention Needed)に指定されている(熊本県希少野生動植物検討委員会 2019)。要注意種ANとは、「現在必ずしも絶滅危惧のカテゴリーに属さないが、存続基盤が今後変化および減少することにより、容易に絶滅危惧に移行しうる可能性の高い種」と定義され、本種の他に維管束植物ではアソノコギリソウ *Achillea alpina* L. subsp. *subcartilaginea* (Heimerl) Kitam. やウスギモクセイ *Osmanthus fragrans* Lour. var. *aurantiacus* Makino f. *thunbergii* (Makino) T.Yamaz. など13種がこのカテゴリーに指定されている。本種は環境省レッドリスト2020には掲載されていない。

また、本種の生育が発見された当時、江津湖周辺は定期的な植物調査が行われており、特に1990年には詳細な調査が行われたにもかかわらず確認されていないため、本種は1990年から1992年の短期間に侵入し定着したと推測されている(佐藤ほか 2001b)。楠本と正元(2004)は、セイタカナミキソウを帰化植物と分類しており、4月になると江津湖の各所で青紫色の花をみることができ、今後も生育場所が広がりそうな勢いであると報告している。本種の侵入経路については不明

2020年11月受付 2021年2月受理

\*1熊本県宇城市松橋町豊福1695  
1695, Matsubasemachi Toyofuku, Uki City, Kumamoto Prefecture.  
aki@fieldnote.com

であるが、初めに本種が発見された地点が熊本市動植物園の江津湖への排水口の近くであることから、隣接する動物園に起因する可能性や、渡り鳥による持ち込み、その他外国産ペットやその飼料とともに持ち込まれたなどの可能性が指摘されている(佐藤ほか2001b)。

これまでに熊本県博物館ネットワークセンターに収蔵されたセイタカナミキソウ標本の採集地はいずれも下江津湖東岸であった。本種の生育は、江津湖周辺の他に熊本県山鹿市鹿本町の道の駅水辺プラザかもとの水辺石積でも確認されている(村田 2005)。

佐藤ほか(2001b)によれば、2001年には、本種は江津湖の上流域から下流域にかけての東岸を中心に約2kmにわたって生育していて、生育適地は水際から少し上の陸地で加湿にならないような立地と判断されている。さらに、本種は江津湖では5月から12月まで開花および継続的な種子生産種子が観察されており、佐藤ほか(2001b)はこれらの種子が江津湖の増水時に他の地域に運ばれて、本種の分布を拡大していると推察している。

セイタカナミキソウの全草を乾燥させたものは「半枝蓮」と呼ばれる中国の民間薬で、解熱、解毒、鎮痛、止血、抗炎症薬として使用され、薬用作用として急性顆粒型白血病細胞抑制作用があるとされている(岡田2002, 富山医科薬科大学和漢薬研究所 2010)。最近では、抗がん作用に注目した研究が続けられている(Su and Tai 2020)。岡田(2002)によれば、中国の江蘇、浙江、福建などの各省および台湾に分布し、沼地付近、田畦などの湿性に生えるほか、薬用に栽培もされる多年草である。日本でも薬用に栽培されているかもしれない。

### 採集標本の特徴

採集した個体を図1に示す。採集時に、本種は開花期にあり、淡藍紫色の唇形花が茎の片方につき、波頭が立つように一方向に並んで咲いていた。葉は対生で鋸歯があり、上部の葉はほとんど葉柄がないが、下部の葉では短い葉柄がみられ、下部の葉ほど大きかった。茎には綾があり、草丈は約20から30cmであった。

さらに当該標本を確認したところ、萼は唇形で、上唇には半円形の隆起があることから、タツナミソウ属 *Scutellaria* の植物であると考えられた。茎上部に総状花序をつけ、花序内では、茎の下部から上部にかけて、花葉の形態が普通葉類似の形状から小さな苞状へと徐々に変化していた。花は対生につき、おおよそ一方に偏ってつく偏側性を示していた。花長は10～

15mm程度あった。茎葉は三角状狭卵形で葉脚は広くさび形から切型をしていた。これらの特徴から、当該標本はセイタカナミキソウ であると判断した。

ただし、保護の観点から地上部のみでの採集だったため、瘦果をえられなかった。これら地下部、瘦果、茎の分枝に関する形質は、今後あらためて確認する必要がある。

### 採取場所

2020年の5月9日に熊本市南区川尻新町橋近くの加勢川河原北岸(右岸)を散歩中に開花中のシソ科植物をみつけた。加勢川は江津湖から流出する河川で、発見した地点は、江津湖の下流にあたる江津湖南端、川への出口あたりから直線距離にして約7.8kmに位置していた。発見時には、種名を調べるために根は残して、上部のみを採集した(図1)。熊本県博物館ネットワークセンターに収蔵されているセイタカナミキソウ標本と比較したところ、本種であることが判明した。1週間後に再調査に行くと、刈り取られていた。生育個体を中心とした半径3メートルの範囲内にオオキンケイギク *Coreopsis lanceolata* L.(キク科)も生育していたが、これも刈り取られていた。採集した個体はさく葉標本として、熊本県博物館ネットワークセンターに収蔵した。

採集した地点には、セイタカナミキソウの他にイネ科のヒメコバンソウ *Briza minor* L., ネズミムギ *Lolium multiflorum* Lam., マメ科のコメツブツメクサ *Trifolium*



図1 採集したセイタカナミキソウ *Scutellaria barbata* D. Don. 右上の枠内は花の拡大。

*dubium* Sibth., シロツメクサ *Trifolium repens* L., カスマグサ *Vicia tetrasperma* (L.) Schreb., タデ科のスイバ *Rumex acetosa* L., ヒユ科のナガエツルノゲイトウ *Alternanthera philoxeroides* (Mart.) Griseb., キク科のヨモギ *Artemisia indica* Willd. var. *maximowiczii* (Nakai) H.Hara, オオキンケイギク, オオジシバリ *Ixeris japonica* (Burm.f.) Nakai, セイタカナミキソウ *Solidago altissima* L., などが生育していた(図2)。採集地点は川の水面から垂直距離で1m以内, 水平距離で5m以内に位置し, 増水時には冠水する可能性が高いと考えられた。しかし, 採集した時には地面は固く乾いていた。

佐藤ほか(2001b)によれば, セイタカナミキソウは刈り取られても, 成長して開花するとされている。2020年10月に確認したところ江津湖東岸では本種の小型個体が多数確認できたが, 川尻では確認できなかった。本種は多年草なので, 川尻においては来春に再び確認される可能性は高い。加勢川は江津湖から流出していることから, 川尻での発見は, 本種が流域に分布を拡大しており, 特に江津湖から本調査地点までの区間の加勢川流域には, さらに生育地がある可能性を強く示唆している。今後さらに詳細な調査をと考えているが, ここではまず, 分布が江津湖から拡大していることを報告する。



図2 2020年の5月9日にセイタカナミキソウ *Scutellaria barbata* D.Donを採集した熊本市南区川尻新町橋近く加勢川河原北岸(右岸)の様子。

## 証拠標本

熊本県博物館ネットワークセンター収蔵標本 登録番号NB21-131202

2020年5月9日, 熊本県熊本市南区川尻新町橋近く, 安田晶子

## 謝辞

本稿の執筆にあたり, 助言をくださった中菌洋行氏をはじめ熊本県博物館ネットワークセンターの皆様, 調査にご協力くださった安田雅俊博士に深く感謝いたします。

## 文献

- 環境省(編) 2020.レッドリスト 2020.別添資料3 維管束植物. 閲覧日2020年11月2日. <http://www.env.go.jp/press/107905.html>
- 熊本県希少野生動植物検討委員会. (2019) レッドデータブックくまもと2019 ー熊本県の絶滅のおそれのある野生動植物ー. 熊本県環境生活部自然保護課. 閲覧日2020年11月2日. [https://www.pref.kumamoto.jp/kiji\\_31095.html](https://www.pref.kumamoto.jp/kiji_31095.html)
- 楠本功一・正元和盛. 2004. 熊本市江津湖における草本植物相. 熊本大学教育学部紀要 自然科学, 53:7-16.
- Lee Y., Kim J.-H., Lee B.Y., Kim J.-S. and Kim S. 2018. A new distribution record of *Scutellaria barbata* D. Don (Lamiaceae) and an erroneously identified *Scutellaria* in Korea. Korean J. Pl. Taxon, 48(2):123-128. <https://doi.org/10.11110/kjpt.2018.48.2.123> ORIGINAL ARTICLE
- 村田源. セイタカナミキソウ について. 2005. BOTANY, 55:1-4.
- 岡田稔(監修)2002. 新訂原色牧野和漢薬草大図鑑. 北隆館, pp406. 東京.
- 佐藤千芳・信國弘・馬場美代子・吉田喜久子. 2001a. セイタカナミキソウ 熊本に産す. 植物地理・分類研究, 49(1):64.
- 佐藤千芳・信國弘・馬場美代子・吉田喜久子. 2001b. 熊本市江津湖のセイタカナミキソウ. BOTANY, 51:54-57.
- Su P.H., Tai C.J. 2020. Current development in integrative therapy of traditional Chinese medicine for cancer treatment: A mini-review. Journal of Traditional and Complementary Medicine, 10:429-433.
- 富山医科薬科大学和漢薬研究所. 2010. 和漢薬の事典(新装版). 朝倉書店, pp254. 東京.

